

(様式3)

自己評価票

作成日 平成22年3月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200862		
法人名	医療法人 祥仁会		
事業所名	グループホーム ハーモニー	ユニット名	1階
所在地	〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師3458-1		
自己評価作成日	平成21年9月24日	評価結果 市町村受理日	平成22年2月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年11月5日	評価確定日	平成22年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

クリニックと隣接しているので、急変時や事故にあった場合でも主治医、看護師がすぐに対応できるので利用者様やご家族の方が安心して生活できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

同一法人が運営する隣接クリニックと密接に連携を図りながら、透析治療を受けている利用者が安心して日々の生活ができるよう支援している。 職員は医療に基づきチームワーク良く支援に努めている。 利用者のユーモアあふれる川柳作品を職員が聞き取り、短冊に書いて掲示するなど楽しい雰囲気づくりに努めている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を意識し、個別に話し合いをしながら日々活動している。	「利用者様の立場に立ち、安心と尊厳ある生活を営むことができるように支援します」との理念のほか、地域住民との交流を謳った事業所の目的を重要事項説明書に明記している。 理念を玄関に掲示するとともに職員で確認し共有している。 職員は同一法人が運営する隣接クリニックでの勤務経験を活かし、透析治療を受けている利用者の気持ちを理解するよう努め支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ホーム内で行事を企画し、近隣住民に呼びかけている。また、地域の夏まつりや敬老会に参加し、ボランティアの手伝いを検討している。	事業所の夏祭りへの参加を地域に呼びかけている。 地域ボランティアの事業所への来訪について市社会福祉協議会に問い合わせをしている。	地域の小学生や中学生、高校生の体験学習の受け入れやクリニック通院患者との交流のほか、地域住民との交流促進について工夫をすることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・立地的に近隣住民との付き合いは難しい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を開催し利用者や事業所の状況を報告している。会議で出た意見や情報を生かしサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は利用者の代表や市職員、近隣住民、事業所職員で2ヶ月に1回開催しているが、自治会関係者や民生委員など、地域の代表者が委員になっていない。 会議では事業所の現状を報告するとともに、行政主催の体操教室などの情報を得て利用者が参加している。	地域との協力関係を緊密にするため、自治会長や民生委員など地域の代表者を委員に加えることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に参加にいただき、意見交換など行っているが、市担当者と積極的に連携を図るまでは至っていない。	市担当者と話し合いレクリエーションや感染症対策などの情報を得て、サービスの質の向上に活かしている。 透析治療を受けている利用者への支援や事業所としてのあり方について市担当者と意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内は自由に出入りできるように昼間はいつも開放し、拘束衣も使用せず、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践するとともに、毎日の申し送り時で身体拘束の弊害などについて話し合っている。 身体拘束に関するマニュアルを作成しているが、研修を実施するまでには至っていない。	身体拘束防止マニュアルに基づき、高齢者の権利擁護や身体拘束防止に関する勉強会の実施が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・個別に対応して話しやすい環境を作り、見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	・日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持てるよう努めたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・十分な説明を行い理解、納得してもらえるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書に苦情相談窓口担当者と事業者以外の第三者機関があることを明記し説明している。苦情箱を設置しているが投稿はない。家族面会時には利用者様と一緒に会話に加わるようにして要望を聞いている。	重要事項説明書に事業所の苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に苦情箱を設置し、利用者や家族等の意見を汲みあげるよう努めている。 家族等から意見や要望があった場合は、職員が利用者ノートに記入し対応に努めているが、全職員がその内容を共有するまでには至っていない。	家族等からの意見や要望を記録する書式やマニュアルを作成するとともに出た意見等の内容や対応経過、利用者や家族等への説明内容を記録し、全職員で共有することが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議を行い職員の意見や提案を聞き反映できるように努めている。	月1回から2回のスタッフ会議で、レクリエーションや花壇手入れの担当者を決めておく必要があるなどの意見にそって担当者を決め利用者の支援にあたるなど、管理者は職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の努力や実績、勤務状態をおおむね把握しているが、意見、要望等ある場合は個々に話を聞いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の外部研修受講の情報提供や研修報告書を作成しているが、段階に応じた研修計画を作成するまでには至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内の事業者懇談会等に参加はしているが交流するまでには至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者様は設置法人が運営するクリニックに通院する患者であるため、利用前から相談や要望を聞く機会を作っている。また、ホーム内を見学したり、他の利用者様や職員と顔馴染なので利用はスムーズに開始されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス利用を開始する段階で本人、家族によくお話を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の話をよく聞き本人に必要な支援ができるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・洗濯や掃除など、出来る限り本人と協力して日常生活をともに過ごしている。また野菜の収穫時期や料理の作り方を教えていただいたりして関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・夏まつりやレクレーション時に家族にも声をかけて一緒に参加していただき、利用者様を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方に利用者様の友人や親類にも訪問していただけるよう協力してもらっている。また、面会時間を厳しくせず来られる時間帯に来所していただいている。	買い物帰りに立ち寄った昔馴染みの友人に「何時でも来訪してほしい」と声かけをしている。 利用者が何時でも馴染みの人に手紙が出せるよう切手をまとめ買いしている。 彼岸やお盆の季節には「墓参りをしたい」など、利用者の希望を家族等に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・席替えを行い、利用者皆さんとコミュニケーションをとれるようにし、孤立せず、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で一時退所しても、家族と連絡を取り合い相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・利用者様との日々の関わりの中で利用者様の言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。	アセスメント時に利用者の成育歴や生活歴を把握するとともに、センター方式の24時間生活変化シートを用いて、徘徊する利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人、家族からの話を聞いて本人の生活史を把握し、ケアに努めている。利用開始前の関係職種にも情報を受けようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝、夕の申し送りを十分に行い常に利用者様の現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、看護スタッフ、介護スタッフと話し合い、日常生活の中で気付いた点や意見を出し、カンファレンスを行い作成している。また、家族面会時には家族の方とも話し合いをしている。	介護支援専門員が作成した介護計画案を基に、医師や看護師を交えたスタッフ会議で協議し介護計画を作成している。 作成した介護計画は家族等の意見を聞いている。 介護計画は6か月ごとにモニタリングや評価を行い、利用者の状態の変化に応じて随時見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録簿を用意し、日々の生活状態の記録を行っており、情報源としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・隣接のクリニックがあるので健康管理、病状変化にすぐ対応できる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・特になし		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医のいるクリニックが隣接しているためすぐ対応できる。	利用者全員が同一法人が運営する隣接のクリニックで透析治療を受けている関係で、利用者や家族等の同意を得てクリニックの医師をかかりつけ医としている。 クリニックと密接に連携を図りながら、急変時や事故時にすぐに対応可能な体制を整備している。 整形外科や歯科など他診療科受診は、病院への送迎も含めて支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・申し送りノートなどで連絡、相談しながら、日々支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・隣接クリニックと毎日連携をとっている。また、早期退院のため情報交換も密に行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・医療連携の中に重度化した場合の指針を作り対応できるようにし、本人、家族が希望する場合はホームでの看取りも可能であることは家族に説明してある。</p>	<p>重度化した場合の対応指針や看取り指針を作成している。</p> <p>これまで重度化や看取りケアを必要とする利用者がいなかったが、看取り介護同意書や看取り介護記録の書式を作成し、家族等や関係者で方針を共有できるよう体制を整備している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・看護師が常勤しており、急変時などはクリニックで対応できるように連携しているので初期段階で受診できる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・定期的に避難訓練は実施しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。</p>	<p>年3回避難訓練を実施している。</p> <p>車椅子の利用者の避難に手間取ってしまう場合があるなど、訓練で得られた課題を記録している。</p> <p>夜間の火災を想定した避難訓練を実施したり、地域との協力体制を構築するまでには至っていない。</p>	<p>運営推進会議などを通して地域の代表者や消防団に災害時における協力を呼びかけるとともに、避難訓練への協力など具体的な協力体制を築くことが望まれる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊重し、自尊心を傷つけないよう声かけに配慮した対応をしている。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、名前をさん付けで呼んでいる。 トイレ誘導や入浴時は確実にドアを閉めたり、オムツ交換は自室するなどプライバシーに配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・傾聴を心掛け可能な限り本人本位の生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者様のペースで暮らせるように見守り、その人らしい暮らしができるように支援しているが、全員透析を受けている方なので、納得してもらえるように説明をして、透析室まで送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月、美容師（理容師）に訪問してもらい好みのカットをしてもらっている。女性利用者は希望により爪にマニキュアを塗るなど、本人の自己決定を尊重し支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・疾患による栄養管理が必要なため食事は職員が作っているが、梅干や漬物など少しずつ本人の好みのものを出せるようにしている。箸、ティッシュの準備、テーブル拭きなどは利用者様と一緒にやっている。	利用者が収穫した野菜を漬物やサラダにして食事の一品にするなど工夫をしているが、利用者全員が透析患者のため、栄養管理された食事が隣接クリニックの厨房から配膳車で届けられている。 お盆のネームプレートやプラスチック製食器などを使用しているため、家庭的な食事に配慮するまでには至っていない。 月1回程度回転寿司などに出かけ外食を楽しんでいる。	地域密着型サービス運営基準の基本方針にある家庭的な環境ということを再認識し、食事時の雰囲気づくりに工夫をすることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分量の管理が必要なため、栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔チェックと歯磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・食後のトイレの誘導や、時間毎の声掛けを実施しトイレでの排泄ができるようにしている。また、自分でトイレに行けない人も、トイレで排泄できるように支援している。	職員は排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導をすることにより昼間はおむつを使用していない。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘傾向にある利用者様が多いため主治医との相談をもとに薬を服用している。また、軽い運動への働きかけにも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴日、時間はある程度決めているが、本人の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。また、病状により入浴できない時は清拭を行っている。	週3回午前入浴と決っているが、利用者の状態に応じてシャワー浴や清拭を支援している。 入浴を拒否する利用者は、担当者を変えたり入浴を午後に変更するなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個人の習慣を考慮し、適時安眠休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師より各人の用法用量を説明し、不明な点はその都度確認している。また利用者様には、声掛けをし服用する場所を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節ごとに行事や外出の計画を実施している。また、習字や貼り絵など、各自楽しみながら過ごせるよう支援している。病状のため、酒、タバコは禁止しているが、おやつなどは多い量でなければ各自用意して楽しめるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・自宅への外出や、買い物など本人の希望を聞き、家族とも相談して、出来るだけ外出の機会を設けている。戸外散歩は希望時や天候により多く取り入れている。	利用者は天気の良い日には午前と午後の2回事業所周辺を散歩するほか、月1回から2回近隣のスーパーに外出し、日用品などの買い物を楽しんでいる。 年3回から4回、花見や祭りに外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・地域の行事へ参加する時や外出で買い物する時は本人がお金を所持して買い物を行い使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望する場合は電話など自由に行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・カーテンでの遮光、テーブルに季節の花を飾ったり、行事に関連する作品を飾っている。また、不快にならない程度に音楽を流して、時には皆さんで歌を歌ったりしている。	共用空間の一角に畳コーナーを設置し、利用者が自由に寛げるよう配慮している。 2階ユニットの利用者も1階ユニットの食堂で一緒に食事をするため、利用者の生活空間が1階ユニットに集中し狭い状況である。	手狭さを解消してゆったりと過ごせるよう、2階ユニットの共用空間の有効利用に向けた話し合いが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・畳や座卓を設置し、それぞれ思い通り過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・長年使い慣れた物を持ち込んでいただき、居心地の良い自室になっている。また本人と相談し、一緒に飾りつけをしながら、より快適な部屋作りをしていきたい。	利用者は居室に使い慣れた枕や籐製箆笥、テレビを持ち込むとともに床にマットを敷いて就寝するなど、職員はそれぞれの利用者の好みにそって居心地よく暮らせるよう支援している。 居室ドアに紙製ポストを設置し、利用者の手紙や外部からの手紙などを投函できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はバリアフリー、廊下の両側は手すりがあるなど安全な環境づくりの中で、自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームハーモニー

作成日 平成22年2月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束防止に関する研修・勉強会の未実施	身体拘束防止マニュアルに基づき、権利擁護や身体拘束防止に関する研修・勉強会を定期的を実施する。	職員全員が受けられるようスタッフ会議などを利用し、複数回に分けて研修・勉強会を実施。	実施中
2	10	利用者・家族等の意見・要望を反映できる工夫	意見や要望を記録する書式、マニュアルの作成。また、対応経過なども記録し全職員で共有できるようにする。	利用者・家族等からの意見や要望を記録できるものを用意し、対応内容・経過も記録して全職員が情報を共有する。	実施中
3	40	食事時の家庭的な雰囲気作りの工夫	家庭的な食事が出来る雰囲気を作り、利用者がより楽しめるようにする。	各利用者のネームプレートは外す。またプラスチック製の食器はやめ、各自家から持ってきてもらうか、買い物時に利用者の好みで買ってもらう。	3ヶ月
4	52	共有空間を居心地よく過ごせる工夫	手狭さを解消し、ゆったりと過ごせるよう共有空間を有効利用する。	2Fの共有空間の有効利用について、スタッフ会議で話し合いながら、また利用者の意見も取り入れ、検討していく。	6ヶ月
5	2	地域住民との交流促進についての工夫	地域の小学生・中学生や高校生の体験学習の受け入れや、地域住民との交流を深める。	地域行事への積極的な参加や、施設内で行事がある場合には、地域住民に参加を呼びかける。体験学習など受入が可能であることを伝える。	6ヶ月
6	35	災害時における地域との具体的な協力体制の構築	地域の代表者や消防団との具体的な協力体制を築く。	運営推進会議を通して地域の代表者や消防団に災害時の協力、施設内の避難訓練時の協力をお願いする。	6ヶ月
7	4	運営推進会議における地域との交流関係の緊密化	自治会長や民生員などの地域代表者を会議の参加者に加える。	自治会などに、連絡・訪問をし、趣旨説明を行い、参加、協力してもらえないか呼びかける。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。